

ふれあいネットワーク



社協

まつもと

発行 社会福祉法人 松本市社会福祉協議会 電話 27-2000
編集 社協まつもと編集委員会 FAX 27-2239
E-mail: syakyoum@avis.ne.jp http://www.avis.ne.jp/~syakyoum/



「おかあさん手づくりの金つば、おいしいなあ」

大きくなあれ、よい子たち

子育て支援、今年こそ

「人口減社会」が到来。少子化対策は待ったなしです。昨年の秋には専任大臣も誕生し、政府も本腰を入れ始めました。松本市も子育て支援を重点施策に位置づけています。みんなで知恵と力を出し合っ
て、今年こそ子育て支援を推し進めましょう。

- ・新春座談会
「頼りにしてます、みんなの社協」… 2～5 P
- ・福祉の勉強、学校めぐり…………… 6 P
- ・「在宅介護者の集い」に参加して… 7 P
- ・梓川地区の福祉活動紹介…………… 7 P
- ・ふくしかわらばん…………… 8 P

平成18年 No.168
1月15日号

社会福祉協議会は、みなさんの会費で支えられています。

頼りにして、みんなの社協

座談会

「福祉の担い手」への期待と要望

国の社会保障政策が大きく変わろうとしています。地域の福祉を担う社会福祉協議会にとっても正念場を迎えています。

そこで社協の課題、要望を座談会(平成17年11月25日)で率直に話し合っていたきました。

出席者の皆さんから、体験に基づいた「意見や提案が出され、松本の今後の福祉への「指針」となりました。

介護の悩み救われた

司会 「私にとつての社協」は、どんな存在だったのか、ご自分と社協の関わりについてお話しください。

横山 私と社協とのつながりは、私が介護をして大変苦しい時に、一泊の「リフレッシュ旅行」(在宅介護者の集い)に連れて行っていただいたことからです。年に一回、八年以上が、交流会の中で自分の辛さや分からないことをお尋ねすると、社協の方が優しく指導していただき、また悩みを聞いていただき、精神的に辛い時期にずいぶん助けていただいた思い出があります。これからは介護者もだんだん増えますので、今後も「リフレッシュ旅行」を是非継続して実施して欲しいと思います。また社協の協力を得て、平

成十三年に介護で苦しんでいた人が集まり、意気投合して三人で介護者の会を立ち上げました。月一回の会ですが、参加者はそれぞれに介護の悩みを抱えた方で、自分の体験や悩みを話したりして、最初は私も涙で話したこともありましたが、同じ悩みを持つている人同士ですので、そこで聞いてもらうことによって、暗い表情で来た人たちが帰りに笑って帰れるような会になっています。

生きがいづくりを



車椅子バスケット
奥原 明男さん

身近な存在、それが社協

奥原 私は今まで社協に関わる活動をしたことはないんですが、社協には、苦しくなった時一番身近な存在であって欲しいと思います。年をとって自分の力でいرونなことができなくなった時、社協の人がいて安心でき、また楽しくなることを検討したり、助言・相談に乗ってくれたりする、そういう生き甲斐を与えてくれることを社協に期待しています。

また、僕は運動が好きですがから経験を生かして、運動の指導をしたいです。そういう事業の中で、障害者の人やお年寄り、一般の人と一緒にふれあいながら活動できるような場を作ってもらい、バリアフリーとかノーマライゼーションを、身近にふれあいながら提供できる企画をして欲しいという希望もあります。

これから僕も少しずつそういう時間も作っていききたいし、情報提供やネットワークを組んでもらって、声をかけて欲しいですね。

司会 奥原さんは、社協の活動にタッチされなかったとおっしゃいましたが、車いすバスケットとか、もつと広い意味で、社協という枠を超えた

ところで、皆さんに勇気や励ましを与えております。ちょっとその辺のご苦労を。

バリアフリー前進を

奥原 僕はよく外国へ行った時、外国の学校で練習したりすることがあるんですが、障害者があんまり目立っていないです。

ごく自然に障害者がいて、「あ、障害者だ」という感覚を持っていないんです。でも日本だと、「障害者の方はこちらへどうぞ」とか「あなたたちの便所はこっちですよ」という風に、何か分けられているような気がしてしょうがないんです。なぜそういう社会ができていなのでしょう。

一般の人たちに、障害者や弱者の人たちとみんな何が違うのか、本当は一緒なんだよということを提供してくれるもの(分かり合える場)がすごく必要じゃないかと思えます。

その意味では、スポーツというのとはみんな一緒だと思えます。今僕らのバスケット部に信大の学生や中学生も来ており、そういう人たちが、「ああ、スポーツって同じなんだ」という気持ちでやっ

てくれていきます。そういう活動で、貢献できないかと思えます。
司会 外国では健常者も障害者もバリアがないんですが、日本ではバリアがあるんですね。勝野さんは学校の先生もなさっていましたし、福祉教育という観点からいかがですか。

福祉への意識改革を



島立地区社協支会長
勝野 壽雄さん

勝野 バリアフリーとかノーマライゼーションについては、相当に配慮した教育がされていると思いますし、学校の施設も、かつては車いす等ではなかなか移動ができませんでしたが、今は相当変わってきています。
意識改革の面でも、相当努力してはいますが、日本の社会そのものが、制度的にも地域的にも感覚的にも、バリアフリーになっていない。そう

いう意味ではまだまだという感じがします。

司会 社協では福祉教育の面にも力を入れていますが。

勝野 私の地区では、ボランティア活動、広い意味での奉仕活動はしていますが、一部の人に限られている状況です。そういう意味でボランティア意識をもう少し掘り起こし、福祉教育にもうちよつと力を入れていかなければという感じがいたします。
司会 佐伯さんは、大学でボランティア活動をされているそうですね。

ボランティアのよさ

佐伯 十月にボランティアセンター分室がオープンした前日からです。たまたまホームページで見えて、ボランティアセンターの存在を初めて知りました。

ここ二カ月間で、中学校に行つて福祉体験活動のお手伝いをさせていたんだり、社協で開催するコンサートのチケットのイラストを描くなどの仕事をさせていたたりしています。

よく学校で「最近、ボランティア始めたよ」って話すと、友達が必ず言うのは、「よくた

だ働きでやっていけるよね。私は、お金が入らないそんなことできない」って言うんです。私は別に働いているとか思ったことはないんです。

最近センターに行くこと自体がとても楽しくて、例えば絵を描く作業などは凝り性なもので、すごく楽しいですね。

そういう意味では、ボランティアセンターはボランティアを紹介してくれる所というより、大学ではできない経験をさせてくれる場所だと思います。



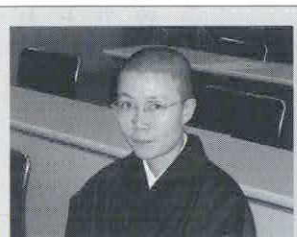
福祉の体験を交えて話し合い

最近、友達によく「今日はね、こういうことをしたんだよ」ということを話した時に、

「あ、そんなことをボランティアでやってるんだ」って、言われたりして。ボランティアというものが、学生にはよく分かっているような気がします。

司会 飯島さん、今までの話を聞いた中で、ご自身の思いをお話してください。

保健・医療・福祉の連携



僧職・看護師
飯島 恵道さん

飯島 私は茅野市の諏訪中央病院で看護師として、内科と地域ケア室の訪問看護、また緩和ケア病棟で働いていました。

月に一回、在宅関係の仕事をしている医療・保健・福祉の関係者が一堂に会して、ケースカンファレンスを行っています。医師と市の福祉課や社協の方、保健師と一緒にやって実際のケアの話をしていましたので、介護保険が始まってからも割合スムーズに移行

できました。

その経験から福祉というのは保健と医療とが連動しているのだと私は思うのですが、松本ではそれぞれの顔が見えない気がします。医療は医療、福祉は福祉、保健は保健、それぞれが一生懸命やっているんですが、横のつながりがありません。横のつながりがないように感じます。

実際、今、それを感じているのが、家に八十代の高齢者の前住職と、七十代の住職がいるんですが、二人とも高齢なので、医療のお世話になっている時は、福祉は全然顔を出さなくて、医療の必要性がなくなると今度は福祉ばかりという状態です。

どちらも使えれば本当に良いケアができ、介護者も高齢者もそんなに疲れない良い状態で在宅療養ができるのに、それがうまくいっていないので、結局自分で選択しなければならぬ状況になってしまっています。

もっと連携をとれるようになったらいいと思います。松本の場合は、お医者さんがもう少し地域に出て、福祉関係者や保健師も一堂に会して話をすれば、しっかりと連携がとれると思うのです。

福祉と保健・医療の三つが連動する体制がしっかりできるといいなと感じます。

司会 松本の福祉について、どんなところに問題点があるのか、こういうところを改善していくべきかなど、それぞれのお立場でお話しいただきたいと思います。

トイレの差別なぜ？

奥原 以前、松本駅前にある障害者トイレが夜間使用できず困りました。アメリカやヨーロッパのように普通の店でも、障害のあるなしに関わらず、利用できるトイレができるとありがたいし、そういう意識改革が必要だと思います。

鳥羽 社協の存在を考えた時、主役は住民のみなさんで、社協はいろいろな企画の提案ですとか、啓発事業などを通じて、黒子役で住民のみなさんの活動を手助けしていくことが、社協、特に地域福祉の仕事だと思っております。



社協職員(梓川) 鳥羽 弘幸さん

社協はもつとPRを

が、鳥羽さん、いかがですか。

飯島 こちらは障害者でこちらは健常者です、という形が昔からできていたので、そういうものかなと思ってしまいましたが、今のお話を聞くと、どちらでも一緒に使える形っていいのは、本当にこれから考えてもいいですね。

司会 社協の職員というお立場で、社協はこうあって欲しい、こうあるべきではないか、ということを通して感じていらっしやると思います

中で企画・提案するような事業展開をすることが、これからの社協として理想ではないかと思えます。

行政と連絡・調整を

勝野 今、鳥羽さんの方から、社協は黒子で、主役は住民という話があったんですが、それに関連してお話しさせていただきます。

現在、松本市が地域福祉計画を策定中で、社協でも地域福祉活動計画を作るとお聞きし、何か同じようなことを別々に行っている感じがします。全国には、行政と社協がタイアップして福祉計画を立て、また活動計画も立てる所があります。私はそれが本来の姿であり、そうしないと福祉活動全体がうまくいかないと思います。

どちらの計画も住民のための計画ですから。また主役である住民も混乱してしまっています。

行政と社協がしっかり手を結んで有機的に機能しないと、地域住民としてはやりにくいと思います。

司会 そうですね。これは非常に大きい問題ですね。

広報活動を活発に

司会 それでは福祉の担い手として、社協にどんな活動をして欲しいか、していくべきかなど期待をお話してください。飯島 「社協まつもと」を読んだだけでは分からないことが多いので、地域に向いて社協の事業について話すなど、広報活動を充実させていただきたい。

また、福祉のお世話にはならないといって、一人で頑張るのではなく、上手に利用すれば少し楽に生活できますよ、という意識を市民全体が共有できるよう、意識改革・福祉教育が必要だと思えます。



在宅介護の経験者 横山ちえ子さん

横山 地区内で在宅介護支援センターが中心となり介護に関する事業を行っています。介護者として大変勉強になり、社協に感謝しています。介護者が健康でなければ良い介護

はできませんので、社協には今後も介護者のケアを行っていただくことを希望します。

奥原 社協が行っている事業も分かったので、これからは社協を利用しましょう！ということをお願いしたいと思います。

ボランティア活動についてPRして、いろいろな分野の方に登録していただき、そういう人を社協はうまく活用すれば良いと思います。地域の障害者で苦労している人たちも、一緒に溶け込めるような企画をつくり、ボランティアの人たちを活用しながら活動の輪を広げていくといいかなと思います。



学生ボランティア 佐伯安寿紗さん

佐伯 学生も社協を利用していったらいいなと思っています。学生の中には、英語ができたり、子供が好きだったり、一芸を持っている人がいます。そういう学生で、私のよう

にボランティアセンターを訪ねてくる人が増えたら、もっといろんな活動ができるようになると思います。大学内で楽団をやっているサークルが施設で演奏する場を設けるなど。

せっかく信大という大勢の学生が集まる場所があるので、社協は大いに活用してください。そういう関係ができれば、学生としてもありがたいと、最近よく思います。



「子育て支援を」の提案も

勝野 いろいろな関係機関がバラバラであると思いますので、有機的な関係を工夫していただきたいと思います。福祉ひろばの利用者も社協を知らない人が多いですね。だいたい分かるけれどもどういうことをやっているのか、という話になってしまいます。そういう意味で、顔がもう少し

し見えた方がいいかなと思っております。

これからは、ボランティア意識というのをいかに広めていくか、だと思えます。すべての人がボランティアに参加するくらいの意識啓発をしていかないといけない。そうしないと、地域福祉の将来性はないということを感じております。

島立地区で久留米市を視察しましたが、久留米市では、民生委員を中心にして、近所の人二、三人のボランティアでチームを組んで、定期的に訪問しているそうです。民生委員さんと一緒に近所の人もいた方が、受け入れる方も受け入れやすいということだそうです。

久留米市のような訪問活動を立ち上げて実施していくことも、社協でいろいろな人の知恵を集め、連携して指導していただければと思います。私どもも頑張りますが、そういうノウハウ等も検討していただきたいと思えます。

それから、もう一つは、子育て支援ですね。実際にはどうしていいかわからないお母さんたちの孤独な子育ての状況がたくさんありますので、

広げよう、育てよう「ボランティアの心」

そういう人々たちへの支援をどう行っていくのか。

近所のおばあちゃんたちがちょっと声をかけるだけで、お母さんも助かります。

社協にお願いするというよりは、私も住民の努力の問題ですが、子育て支援についても啓発していただければと思います。

司会 深澤さん、社協に対してさまざまな注文や期待もある。それに応えていく社協職員としてはいかがですか。



社協・地域福祉課
深澤 亨さん

深澤 みなさんからたくさん要望、また応援メッセージをいただき、頑張らなくてはいけないと感じています。一気にというわけにはいかないと思いますが、みなさんからのご提言・ご意見のありがたさを、ひしひしと感じさせていただきました。

なお、社協では「ボランティア」や「社協について」の

出前講座を始めていますので、活用していただきたいと思います。



司会
北村 明也さん

司会 今、勝野さんからたくさん大事なご指摘があります。社協があつて、それを地域ががっちり受け止める。お互いに良い関係で進んでいけばいいと思うんです。

地域によって確かに違いがあります。福祉について理解不足があったり、取り組み不足があったり、あるいは非常に進んでいるところもあったりです。

だからこそ「頼りにして、みなさんの社協」ということで、松本の福祉をより充実させ、安心・安全の地域づくりのため、今日の提言を生かして努力して下さるよう、よろしくお願ひします。大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

座談会の出席者

(発言順・敬称略)

横山 ちえ子 (在宅介護の経験者、主婦)

奥原 明男 (車椅子ハスケット選手)

勝野 壽雄 (島立地区社協支会長、地域福祉実践者)

佐伯 安寿紗 (ボランティア、信州大学人文学部学生)

飯島 恵道 (僧職、看護師)

鳥羽 弘幸 (社協梓川地区センター職員)

深澤 亨 (社協地域福祉課長)

司会

北村 明也 (松本市健康福祉21市民会議会長・「社協まつもと」編集委員)

「社協まつもと」編集委員会から左記の委員が出席しました。

大月一夫 佐藤佳昭

西牧利雄 波多腰力

古田元秀 丸山年子

村山康文 山岸久美子

(五十音順)

福祉の勉強 学校めぐり

開明小学校

5年3組の学習

「総合的な学習」を中核として・・・



4月 新しい学級がスタート
『総合的な学習』の時間に
▼「去年習った点字・手話を使って
お友だちをつくりたいなあ」
▼「去年、せっかく仲よくなれた
松本盲学校のお友だちと もっと交流したいなあ」
・・・など 希望をもっていた子どもたち



6月 松本市で開催された
北信越盲学校女子
フロアバレーボール大会へ

松本盲学校小学部のお友だちも
中学生、高校生にまじり出場する[※]と聞き
意気どんで応援・観戦に出かけ
ました。時間の都合で長野盲学校vs
富山盲学校の試合が見られませ
んでしたが・・・



10月 社協ボランティアセンターの方による学習会

高齢者擬似体験

こうれいしゃぎごたいけん

気づきつて来



読める??

おじいちゃんとおばあちゃんの手で字を
書いてみました。そうするといつもより字
がうまく書けないし、字がだんだんと上
にあがってしまいました。
この勉強でおじいちゃんとおばあちゃんの
気持ちがわかりました。



最初は、と山をおうえんしまし
た。と山は、たった三人でやった
ので、心配が高まったけど、かけ
声を合わせて、私たちは一生け
んめいおうえんしました。
私たちのおうえんプラスと山三
人のおかげで、と山が勝ちまし
た。とてもうれしかったです。と
山の選手の人もきつと心のそこ
からうれしいと思います。私の
百倍ぐらい、うれしいと思いま
す。

その後、松本盲学校が3位に
なったことを知り、お友だちからお手紙
も届き、みんな大喜びしました。



これは何色?
えっ!?
ピンク
じゃないの!!



ゆっりのび

目が見えにくくなったり、歩き
づらくなったり、細かい作業が
できなくなったりして、おとし
よりの人はそんな事がたくさ
んあるのに、毎日がんばって仕
事などをされていて、「すごいな
あ」と思いました。

うん...のみにくい



11月 全校 なかよし旬間に
(人権教育)

「寿台養護学校 あゆみ部のお友だち
小松恭子先生のお話を聞く会
がありました。」



先生のお話を聞いて思ったこと
は、体が不自由な人でも他の人
と全くかわらないということ
です。そして、いつもやってい
る自然なことがむずかしいと
思う人たちもいるということ
です。
養護学校の人は、自分の不自由
な所は自由に使える部分でお
ぎなっているのがすごいと思
います。みんながみんな、なん
でもできるわけではないから、
不自由な所がある人にやさし
い世の中になっていくといいと
思います。

人にはだれでも、苦手な事、がんばっても
思い通りにはいかない事、のりにえられないことなど
ある。・・・そんな事実をそんな立場の人を
そんなときもやさしく受け入れられる人になろう。
そんなやさしい世の中をつくりたい。・・・
願いをさらに強くもち、学習をすすめ、深めていく予定です。

「在宅介護者の集い」に参加して



介護の悩みを分かち合う

「在宅介護者の集い」は寝たきりや認知症高齢者の介護者を対象に、悩みや体験を語り合っただけでなく、日頃の介護疲れを癒して心身のリフレッシュを図ることを目的に年4回実施されています。また、福祉サービスの紹介や健康相談も行っています。今回はこの集いに参加された方々に感想をうかがってみました。

(カッコ内は実施場所)

◆参加したり知った顔があったので、安心して話をする事ができました。
(静岡県・館山寺)

◆自分の悩みを聞いてもらえたので、明日からの介護の力になった。
(同上)

◆皆さんの本音の発言に感動した。
(河口湖)

◆同じ悩みを持つ人同士で話すと、お互い共感できるの、心強く思う。
(岐阜県・高山市)

◆回数が少ない。2ヵ月に1度、地区ごとに悩みを話せる場所が欲しい。
(同上)

◆参加者の体験を聞いて参考になり、頑張ろうという意欲が湧いた。
(山梨県・河口湖)



介護仲間と楽しい会食

◆美味しいものを食べ買って買物をして、ホッとできる時間だった。
(石川県・山代温泉)

私たち梓川地区ではこんな活動をしています

梓川地区では11月28日・29日にボランティアの会が「シルバーのつどい」を開催しました。このつどいは、梓川全域にわたって活動しているボランティアの会の皆さんが企画し、参加される方の送迎や司会進行も行う、すべて手作りの行事です。65歳以上の一人暮らしの方と70歳以上の配偶者のいない高齢者の方を対象として、梓川老人福祉センターで芸術文化団体等の催し物を楽しんでいただきました。



会食会で話がはずむ



ボランティア会員が踊りを披露



保育園児もマツケンサンバ

本年度から松本市になったことにより「ふれあい会食会」事業が行われるようになりましたが、このつどいと対象者が重なる部分があるため、合同事業として、皆さんにあずさ夢工房のおやきを召し上がっていただきました。皆さん毎年このつどいを楽しみにしておられ、催し物を楽しむのはもちろんですが、普段なかなか会えない仲間と話すことが一番の楽しみようです。

ふくし・かわらばん

高齢者クラブに入会しませんか

私たち高齢者クラブは会員相互の親睦をはじめ、健康増進・生涯学習・社会奉仕・世代間交流など、さまざまな活動を行っています。協賛店での買い物5%割引や各種補助金交付などの特典制度もありますので、60歳以上の方の入会はもちろんのこと、連合会へ未加入のクラブの加盟もお待ちしています。

なお、詳しい入会・加盟方法については、連合会事務局のある社会福祉協議会のほか、市の高齢福祉課へお問い合わせください。

- 問い合わせ 松本市高齢者クラブ連合会
☎27-3381 (事務局・社協)
☎34-3214 (高齢福祉課)



社協の出前講座ご利用を

社会福祉協議会では、市民の皆さんと職員がパートナーとなって、だれもが安心して暮らせる地域をつくるため、出前講座を実施しています。詳しくは下記まで、お気軽にお問い合わせください。

- 受講人数 概ね10名以上のグループ
- 実施講座名 ①だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり～地域福祉と社協活動～(60分)
②あなたにもできるボランティア活動(60分)
- 問い合わせ 松本市社会福祉協議会
☎27-3381 (地域福祉課)



福祉相談をご利用ください

相談はすべて無料です。
(個人情報等の秘密は厳守されます)

| 相談名 | 曜日 | 時間 | 電話番号 |
|-----------------|-------|-----------------------|---------------------|
| 福祉 なんでも相談 | 月・水・金 | 13:00～15:00 | ☎27-3381 |
| 福祉法律相談 (弁護士) | 第2月曜 | 13:00～15:00 (先着8名) | 10時電話受付 ☎25-3133 |
| 地域福祉 権利擁護相談 | 月～金 | 8:30～17:00 | ☎27-3381 |
| ボランティア 相談 | 月～金 | 8:30～17:00 | ☎25-7311 |
| | 火・金 | 10:15～19:00 | ☎88-2988 |
| 介護相談 | 月～金 | 8:30～17:00 | ☎25-3895 |
| 福祉 アドバイス相談 | 月 | 13:00～17:00 | ☎25-3133 |
| | 水 | 19:00～21:00 | |

市民活動サポートセンターに ボランティアコーディネーター!

松本城の南側に開設された大手分室(市民活動サポートセンター)にはボランティアコーディネーターがいます。ここではボランティアに関するさまざまな相談や情報をお待ちしていますので、学校やお勤めの帰りにお気軽に、また気楽にお立ち寄りください。

ボランティア相談日

◇曜日・時間 毎週火・金曜日
午前10時15分～午後7時

また、毎週水曜日の午後2時～5時までは福祉アドバイザーが相談を受付けています。

[問い合わせ] ☎88-2988 (共通)



在宅介護者の集い参加者募集

- ◎日 時 2月15日(水) 午前9時15分～午後3時45分
- ◎会 場 松本市 浅間温泉
- ◎内 容 つぼマッサージ、介護者間の交流・懇談、健康福祉相談等
- ◎対 象 者 現在、在宅で高齢者の介護をされている市内在住の方
- ◎参 加 費 無料(定員35名)
- ◎問い合わせ 松本市社会福祉協議会
☎25-3895・FAX27-2239



使用済み各種カード類の 収集を終了しました

長い間、みなさんからご提供いただいていた使用済み各種カード(テレフォンカード・オレンジカード・プリペイドカード・ハイウェイカード等)の収集を、昨年11月末で終了いたしました。多くの方々にご協力いただき、本当にありがとうございました。

なお、アルミ缶・古切手・書き損じハガキにつきましては、今後も引き続き収集しておりますので、ご協力よろしくお願ひします。

- ◆問い合わせ 松本市社会福祉協議会
地域福祉課 ☎27-3381

